

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

税金が求める将来の私達とは

長岡市立北中学校

三年 小林 力也

「税金」と聞いて私は、未来を創造していき、未来が進化していくためにはかかせない存在であると考える。また、社会が今、成り立っているのは、税金のおかげであると思う。

私たちの身近な税金の一つである「消費税」は、物を購入した時に払わなければいけない。そこで、現在までの情報やニュースを確認してみると消費税は導入時三パーセントに比べると今では十パーセントに引き上げられ、市民は不満の声を上げるが、確かに十五歳の私たちが大人になった頃は消費税率もずっと高くなるのではないかと不安になる。しかし、未来を支えていくために国民は協力するのが大切だと考える。中学生も使っている教科書は税によって買われたのは知っている。そこで、自分たちは税に感謝せねばならない。また、教科書を使い、未来に貢献できるような大人にならなければならない。自分たちは未来に貢献することで、「想像力」と「創造性」を生む。税金を使い未来を協力して考えていくことで人間は地球を愛し、税金として買われた物を大切に使うことができるのだ。したがって、自国をより好きになることができると私は考える。また、自国を愛した国民は社会に貢献したいという意志が生まれる

というのを税は、未来の私たちに伝えていくのではないのか。高齢の方や障がいを持った方は、税金に関してどのような事を考えているのだろうか。現在の日本が抱えている問題はいくつかある。その中でもこれからの未来として重要性が高いのは「超少子高齢社会」である。これから日本は若者が減り、高齢の方が増えていく。そこで、今まで以上に介護や施設へ支援として「税金」を必要とする。また、全国のコロナウイルス感染予防として私たちに配布された「アベノマスク」は多額な税金によって買われたものだが、私はこのような行動に反対だ。なぜなら、各家庭に十分な量のマスクがあり、布よりも安全性の優れたマスクの販売が復旧してきているからだ。確かに国民の平和を守るために備えるのは大切である。しかし、アベノマスクは現在の日本では使われているのだろうか。やはり、人々が汗を流して集めた税金は、国民の役に立ち人々にとってプラスになる使い方をしなければならぬ。私は現在も日本の様々な場所で困っている人や苦しんで助けを求めている人々に税金を使うべきだと考える。また、税金の使い方を誤ってしまうと、国民からの不満の声があがる。したがって、人々の社会に対する意欲が奪われてしまうのだと思う。人間の歴史は過去を振り返ることで成長し、未来に発展していくものだ。私は考える。それは、税金も同じで様々なこととして使われてきた税金から私達は感謝の心を教えてもらい素敵な日本を築くための社会へと発展していき、新しく人間の満足のいく希望へと導き出してくれると思う。日本を愛する人々が財産として、平和を願う私達の暮らしはあたりまえではない。